

平成 22 年 5 月 28 日現在

研究種目：基礎研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330011

研究課題名（和文）現代海洋法制度の動態的分析とその理論的再構成—法史的分析をふまえて

研究課題名（英文）Dynamic analysis of Modern Law of the Sea and its theoretical reconfiguration - taking historical analysis of law into consideration

研究代表者

吉井 淳 (Yoshii Atsushi)

明治学院大学・国際学部・教授

研究者番号：30125687

研究代表者の専門分野：国際法

科研費の分科・細目：

キーワード：国際法 海洋法 排他的経済水域 大陸棚 領海

## 1. 研究計画の概要

海洋法の形成過程の思想史及び制度史的な観点からの検討をふまえて、今日、「海洋法に関する国際連合条約」を軸として展開している海洋法秩序について、個々の海洋制度の運用の実態を分析し、現代海洋法の総合的かつ体系的な分析を行うことによって理論化し、かつ将来の法的な課題を展望する。とりわけ、①日本における海洋法の主要問題、②諸国の海洋法に関する国内法制の比較研究、③国際社会の組織化と海洋法、④近隣諸国の研究者との研究交流、を主な柱とする。

## 2. 研究の進捗状況

年 3 回程度の研究会を継続し、ほぼ予定通りの研究成果を得ている。中国海洋法学会との共催で海洋法ワークショップを 3 回開催。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

現在「海洋法の歴史的展開」「海洋法の主要事例とその影響」を刊行、「日本における海洋法の主要課題」を本年度中に出版予定、「海洋法と国際社会の組織化」の原稿を 8 月末までに完成予定。

## 4. 今後の研究の推進方策

(1) 全員で集まる研究会を、年間 3 回の計画で行い、各研究分担者の担当部分についての研究報告を行う。

ひきつづき、外部の専門家を招いての講演会等を積極的に開催する。

研究会は東京、京都およびその他の 1 カ所で開催する。

(2) ひきつづき、外国の研究者・法律実務家との意見交換を重視する。特に、中国、韓国、東南アジアの研究者との交流を積極的に行い、平成 19 年度に開催する中国の研究者とのワー

ショップの範囲を順次、韓国、東南アジアへと広げる。

(3) 研究者間のネットワークの一層の強化をはかる。海外とのネットワーク上の研究会等も企画する。また、その際に必要となる通信手段、データベースの作成等の検討を行う。

(4) 研究代表者および研究副代表者は、ひきつづき研究の全体計画の作成および調整を行うとともに、「日本海洋法研究会叢書・現代海洋法の潮流」の出版について、具体的な調整・編集のための作業を行う。

(5) 各研究分担者は、担当分野に関する研究論文を執筆する。それらは「日本海洋法研究会叢書・現代海洋法の潮流」に掲載する。

(6) 「日本海洋法研究会叢書・現代海洋法の潮流」第 3 巻『日本における海洋法の主要課題』を出版する。また、第 4 巻『海洋法と国際社会の組織化』の出版準備を行う。

(7) ひきつづき、研究用の図書および資料の収集を行う。必要に応じて海外での資料収集を行う。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

青木 隆

〔資料〕国連海洋法条約附属書 VII による仲裁の手續 清和法学研究 16 巻 2 号(2009 年 12 月)

〔学会発表〕(計 2 件)

坂元茂樹

“On New Anti-Piracy Legislation in Japan” in the 9<sup>th</sup> Science Council of Asia

held at Singapore (2009年6月18日)

田中則夫

〔招待講演〕海洋の生物多様性保全の国際法  
—海洋法と環境法の統合的アプローチの探  
求(基調講演)(The International Sea and  
Fishery Issue held by the Taiwanese  
Society of International Law)2009年12月6  
日 台湾高雄市・ホテルメトロポリタン

〔図書〕(計6件)

海洋法の歴史的展開 有信堂

海洋法の主要事例とその影響 有信堂

小寺 彰

共編著『海上保安法制』(2009)(第2章  
第3節「領海外沿岸海域における執行措置」  
および第4節「執行管轄権の域外行使と旗国  
管轄権」(156-198頁)代表編集山本草二他と  
共編)

単著「排他的経済水域における「軍事調査」  
—海洋科学調査との関係を手がかりにして—」  
海上保安協会編『海洋権益の確保に係る  
国際紛争事例研究』第2号47-58頁

深町公信

「違法漁業活動」山本草二編集代表『海上保  
安法制』(海上保安庁60周年記念論文集)  
(三省堂、2009年)274-292頁

薬師寺公夫

「海洋汚染」山本草二編集代表『海上保安法  
制』(海上保安庁60周年記念論文集)(三省  
堂、2009年)329-352頁

坂元茂樹

「領海」山本草二編『海上保安法制—海洋法  
と国内法の交錯—』三省堂(2009年5月)  
130-155頁。

「調査捕鯨船への妨害行為に対する我が国  
の管轄権行使について」『海洋権益の確保に  
係る国際紛争事例研究(第2号)』(財)海  
上保安協会(2009年3月)85-100頁。